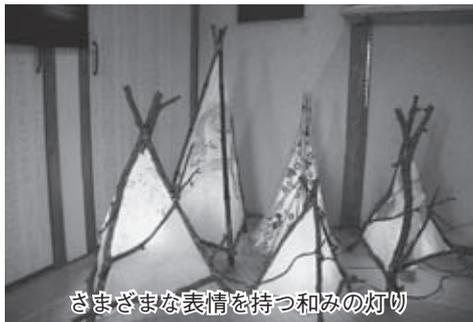




# コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



さまざまな表情を持つ和みの灯切



豊岡市商工会女性部竹野支部での和みの灯り作り



工房にレザークラフトと共に展示

## まことに「和みの灯り」を広め まちも人々の心も和ませる元気人

今や竹野地域でこれを持たない家はないくらいに広まった「和みの灯り」。その仕掛け人の1人である元気な女性を紹介します。

米田 扶沙子さん(73歳)竹野町竹野

### 好奇心旺盛

毎年7月30日に開催される

竹野の夏の風物詩「たけの海上花火大会」で、訪れる見物客らを楽しませるもう1つの

アイテム(小道具)が、通りの家々の前にそと置かれる「和みの灯り」。この灯り作り

に取り組み、指導もしているのは、豊岡市商工会女性部竹野支部長の米田扶沙子さんです。

手先の器用な米田さんは、洋裁の仕事をしていましたが、30年前くらいからは、家業の電器店経営の傍ら、皮細工にのめり込んでいました。「昔から好奇心が旺盛で、いろんなことに興味を沸くんですね」と米田さんは話します。

### 始めたころは無我夢中

きっかけは、商工会主催の講習会で、和紙の灯り作りを学んだことでした。「講師の方が持つて来られた見本と、桜の木や流木が置かれているだけでしたから、枝を切ったり紙を張ったり…。もう無我夢中でしたね」と米田さんは当時を振り返ります。最初は、ひももうまくくくれない、すぐにぐらついてしまいました。しかし、でき上がった灯りの

何ともいえない心地良さに癒され、すっかり和みの灯りの魅力に引き込まれてしまいました。

### 同じものは2つとない

和みの灯りとは、基本的に木の枝や竹などをひもやボンドで三角錐に組み上げ、さまざまな色や柄の和紙を張って仕上げたものです。使う木や和紙の種類によってさまざまな表情を持つ灯りが生まれます。「2つとして同じものはないですね。自分だけの灯り。それが魅力です」と米田さんは目を輝かせます。

桜や竹、黒竹、南天、流木…と、どんな材料でも、米田さんの手にかかる立派なアートに生まれ変わります。「散歩をしていても、木や流木が落ちていると、つい拾ってしまいます。一種の職業(趣味)病みたいなものですね」と米田さんは笑います。木の枝振りやそれからできる灯りが想像できるそうです。そうしているうちに和紙にもこだわりのようになりました。

### 「ゆかたリフォーム展」で グランプリ受賞

高級な紙や落ち葉を挟み込んだ物を使ったりと…。和紙の代わりに自分の古い浴衣を使った作品は、城崎文芸館主催の「ゆかたのリフォーム展」グランプリを受賞しました。

「落ちていく木や着なくなった古い浴衣に、新たな命を与える。とても素晴らしいですね」と話す米田さんはまるで魔術師のよう。趣味が高じて、自宅前に工房兼ギャラリーを構えてしまいました。

今では、女性部竹野支部に講師の依頼が増えています。「いろいろなところへ出かけて行き、交流を持ちながら和みの灯りも広めたい。お呼びが掛かれればどこへでも行きますよ」と話す米田さんの夢は、和みの灯りが多くの家の玄関をやさしく照らすことです。



▲何にでもチャレンジする好奇心旺盛な米田さん。趣味は皮細工

広報マンがやってきた!

幼稚園編

7

# 福住幼稚園

(出石)

〈園児42人〉



出石トンネルの近くに位置する福住幼稚園では、年に数回、地域の未就園児との楽しい交流が行われています。

7月5日、毎年恒例の「たなばたまつり」が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

**私たちのお願い  
かなうといいな!**

「警察官になれますように」「キュウリが食べられますように」「家族が元気でいられますように」…。園児たちは、「まつり」の前に、さまざまなお願いを書いた短冊や飾りをササに取り付けます。私たちのお願い、かなえてね!



**みんな元気に  
♪ササの葉さ〜りさ〜り♪**

今日は、地域の未就園児たちを招待しました。

一緒に、七夕の歌を歌ったり、先生の紙芝居を見たり…。まるで弟や妹ができたようです。

**「たなばたまつり」のお祝いに!?**

園長先生が、特別に手品を披露してくれました。園児たちが「ちんぷいぷい」とおまじないを唱え



ると、園長先生の手にあるひもが固い棒のように…。園児たちは驚きを隠せません。

**赤色、黄色…  
ゲームも楽しくお星様!**

先生が色の付いた星の絵を配ってくれました。赤、桃、黄、緑。それを体に張り付けます。先生が「〇〇色」と言うと、その色の☆星たちは、座っている席から

違う席へ一斉に動き出します。きらきら輝く星のように、元気に楽しく駆け回っていました。



**織り姫様、ひこ星様  
みんな仲良くなれました!**

楽しい時間もあっという間です。たくさん動いた後は、先生から凍ったゼリーをいただき、ほお張りします。気付けば、みんな仲良し。織り姫様、ひこ星様、ありがとう。



## 顔輪 笑の

ハワイアンバンド

### レインボーフレレンズ(日高)

レインボーフレレンズは、代表者の辻晋一郎さん(日高町名色)が、ガーデニングを通して交流のあった方々に声を掛け、3年前に結成したハワイアンバンドです。

現在、メンバーは10人で、地元の方と半数以上のメンバー(出身地とは別の地域に移り住むこと)の方で構成されています。

毎月第1・3木曜日の午前10時から正午まで、辻さんの別荘を改修した音楽室で練習しています。



▲辻さん(右端)の掛け声で演奏を始めるメンバー

練習の合間には、近況を報告しあうなど、楽しくおしゃべりしています。こうした仲間との触れ合いや雰囲気の高さが、楽器の音色にも表れています。

「メンバーには、弾き方の基礎を一から教えるのではなく、いきなり曲を弾くことで楽しみながら音楽に取り組めるようにしました。ただ、最初の曲を合わせるのに3カ月も掛かりました」と辻さんは笑います。

日ごろの練習の成果を、市内外の催しなどに

練習では、ウクレレ、ギター、スチールギターなどの楽器を持ち、コードや曲の出だしのタイミングを確認するなど、皆さん、真剣に練習に取り組んでいます。メンバーの中には、20代のころから愛用しているギターを今も大切に使い、演奏している方もいます。

出演し、披露しています。次回は、8月29日(日)に朝来市で開催されるフラダンスの発表会で、地元神鍋のフラダンスチームのバックで演奏する予定です。問合せは、辻さんまで。

☎ 45-10421